

飛鳥井雅経年譜*

本稿に先立つ飛鳥井雅経の年譜として、武藤康史氏の「藤原雅経年譜」(『三田国文』二号、昭和五九年三月)があり、本稿も負うところが大きい。稿者なりに付け加え得る事項も存するため、本年譜を作成した。本稿で武藤氏説とするものは、すべてこの年譜による。

依拠資料等の出典

- 公卿補任・尊卑分脈・吾妻鏡 新訂増補国史大系
- 玉葉・明月記 国書刊行会編
- 山槐記・吉記・順徳院宸記 増補史料大成
- 源家長日記『中世紀日記文学全評釈集成 第三卷』(二〇〇四年、勉誠出版)
- 御遊抄 続群書類従五二七
- 猪隈関白記 大日本古記録
- 系図纂要 名著出版
- 和歌合略目録 続群書類従四七〇
- 革弔要略集裏書 渡辺融氏・桑山浩然氏『蹴鞠の研究公家鞠の成立』(一九九四年、東京大学出版会)
- 古今著聞集 新潮日本古典集成
- 菟玖波集 日本古典全書
- 和歌は『新編国歌大観』による。また、歌合・歌会で完本が現存

稲葉美樹**

するものは、『新編国歌大観』の巻数と通し番号を示した。

嘉応二年(一一七〇 一歳)

同年中 出生。父藤原頼経。母源顕雅女。(尊卑分脈)

治承三年(一一七九 一〇歳)

正月五日 叙従五位下。(玉葉・山槐記。尊卑分脈・公卿補任は

治承四年一月一日とする)

文治元年(一一八五 一六歳)

一月一日 父頼経らが、源義経の腹心であると源頼朝に伝えられる。(吾妻鏡)

二月二十九日 任近江守。(吉記)

文治五年(一一八九 二〇歳)

三月一日 頼経、伊豆に配流。(大日本史料所引仲資王記) 兄宗長解官。(尊卑分脈・公卿補任)

この後数年のうちに鎌倉へ下向、源頼朝の猶子となる。(大日本史料所引革弔別記 建久八年二月二十八日条)